

単元名:グローバルについて知ろう		
氏名:横山 太	学校名:河内長野市立楠小学校	
担当教科:小学校全科	実践教科:総合	
時間数:2時間	対象学年:3年生	人数:68人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標(評価の観点を意識して設定):外国について興味、関心を持ち、自分たちの生活と世界がつながっていることを考えることができるようにする。		
【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	ペルーの学校の様子、河内長野市の外国とのつながりなどを知り、外国の存在、外国とのつながりを知ることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	世界の国々の存在について気づき、世界と自分の関わりについて考えることができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	世界の国々や出来事に興味をもち、日本とのつながりについて考えることができる。
【3】 単元設定の理由	<p>教師海外研修に参加してペルーという外国の学校を訪れ、日本との相違点について興味深く感じた。児童にとっても興味深く感じられることは、間違いないと感じた。この相違点を紹介することで、普段、外国の存在を意識することの少ない児童にも外国にも興味、関心を持ち自分たちの生活とのつながりがあることの気づきの端緒となることを期待した。また、授業者が勤務する河内長野市にある国際交流協会のイベントに参加し、河内長野市の中にもたくさんの外国と関わりがあることを紹介することで、身近なところにも外国とつながりがあることで興味、関心持ってもらうことをも期待した。「グローバル」という、大人には、広く世の人々に知れわたっている言葉を象徴的に使うことを通して、児童たちに、地球はひとつだということを伝え、外国人との関わりについて考えることができる授業にしたいと考えた。</p> <p>児童観:</p> <p>本校は、大阪府の都市部から離れた南東端にある。児童たちは、外国人を普段、みかけることもあまりない。児童は、世界について知らない子が大半である。ニュースやYouTubeなど断片的な知識を持つ児童もいるが、現実世界では、ほとんど外国との関わりがない。本校でも外国のルーツを持った児童もいるが、おしなべて少数である。</p> <p>10月には、イギリスと日本にルーツを持つ児童が短期間、体験として在籍をした。それが外国の存在についてはじめて意識できる契機となった。児童たちにとって、その関わりがとても楽しかったゆえ、外国や外国人に対して、総じて肯定的な好印象をもっている。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容 		

<p>【3】 単元設定の理由</p>	<p>指導観: イギリスという先進国の児童との関わりがあり、児童たちは、外国について、興味、関心を持ち、好印象をもっている。イギリスに続いて、開発途上国の外国、外国人についても同様に興味、関心を持ってもらいたい。以前から河内長野にも外国人技能実習生や留学生など様々な国、特に一般的に子どもたちがイメージしやすい「外国」である欧米諸国以外の国からも移住している人が多い。</p> <p>本学習では、ペルーの学校、河内長野市の中の国際交流協会のイベントなどを紹介する。地球には、外国があること、河内長野市にも様々な出身国をもつ外国人も多いこと、そんな外国人と仲良くできる素養を身に付ける第一歩としてグローバルという言葉キーワードに学習を進める。</p>		
<p>【4】展開計画(全2時間)</p>			
<p>時</p>	<p>テーマ・ねらい</p>	<p>活動・内容</p>	<p>使用教材</p>
<p>1 本時</p>	<p>グローバルについて知ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで学習のめあてを知る。(グローバルについて知ろう) ・世界地図と地球儀の違いに気づく。 ・地球儀で、日本・イギリス・ペルーを見つける。 ・JICAの動画を観る。 ・教師海外研修で訪問したペルーの学校の様子を写真で見る。 ・班であつまり海外との関わりを話す。 ・ロイロノートで発表する。 ・バナナ・エビがどこから来るか知る。 ・グローバルゼーションについてまとめる 	<p>世界地図 地球儀 タブレット (ロイロノート) わたしたちの河内長野</p>
<p>2</p>	<p>河内長野市の中の外国について知ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルゼーションについて確認する。 ・織田家の一日 ごはん編を学ぶ。 ・姉妹都市について クイズ アメリカ カメル市について学ぶ。 ・地球儀でアメリカ・ベトナム・中国を見つける。 ・世界ごった煮ふえす2023 (河内長野市国際交流協会主催イベント)を写真で見る。 ・織田家の一日 ヒト編を学ぶ。 ・外人? 外国人?という言葉について考える。 ・班活動 日本と関わりかかわりのある外国や人について話す。 ・個別活動 私たちと関わりのある外国について知っていることをプリントに書く。 <p>まとめ 世界はグローバルゼーションでつながっている。モノだけでなく人もつながっている。河内長野市にも多くの外国にルーツを持つ人が増えてきている。外国人とわけへだてることなく、同じ日本に住んでいる人として仲よくすることを学ぶ。</p>	<p>地球儀 iPhone JICA教材 つながる世界と日本 (P4.5.8.9)</p>

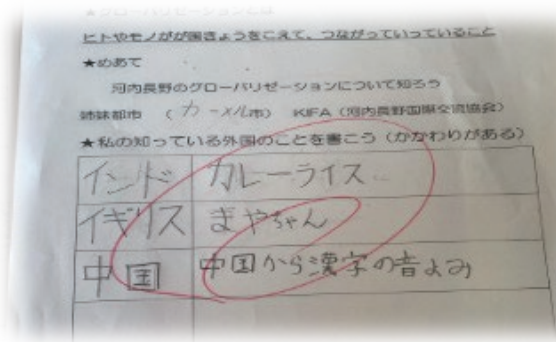
【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートで学習のめあてを知る (グローバルについて知ろう) 	<ul style="list-style-type: none"> 何の地図か考える 世界地図だと答える。この地図の端っこは、どうなっているのかな?を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノート モニターTV 世界地図 地球儀
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図を見る。世界地図と地球儀の違いに気づく 地球儀で、日本・イギリス・ペルーを見つける。 JICAの動画を観る 教師研修でのペルーの学校の様子を写真で観る 班であつまり海外との関わりを話し、ロイロノートで発表する。 バナナ・エビがどこから来るか知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀を班ごとに見る。地球が丸い球であることを確認する。地球のことを英語でグローブといい、グローバリゼーションという言葉があることを学ぶ。 班ごとにシールを日本、イギリス、ペルーの位置に貼る。 イギリスは、10月に短期在校したイギリス人の児童を思い出す。 JICAの活動、教師海外研修の紹介動画を一部鑑賞する。 教師海外研修でのペルーの学校を写真で観る。 	
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> グローバリゼーションについてまとめる。 	<p>世界はグローバリゼーションでつながっている。モノだけでなく人もつながっている。河内長野市にも多くの外国にルーツを持つ人が増えてきている。外国人とわけへだてることなく、同じ日本に住んでいる人として仲よくすることを学ぶ。</p>	

【授業実践の様子】

ペルーの学校訪問の様子を写真で紹介している。



児童たちが、外国について知っていることを書いたプリント



【6】本時の振り返り

世界地図、地球儀といったふだん触れることのない教具、動画、写真などを通して、児童たちは興味深く授業に集中できていた。ロイロノートでの児童たちの発表を用意していたが、機器トラブルにより児童たちの発表ができなくなり、次時の予定に発表を組み込むことになった。授業後に授業の感想を聞くと、「知らなかった外国について知ることができた」といった肯定的な感想が多かった。特に、外国の学校の話には、「自分たちの学校のあり方があたりまえでないことを知り面白かった。」との声をよく聞くことができた。ペルーなど外国の存在、外国とのつながりについて興味、関心をもつことができるようになった。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

地球が丸いことを知らない子どもが丸いことを知り、丸いことを知っていても、どんなふうに丸いのか、世界がどのように地球の表面に位置しているのか実感を持って理解することの端緒となった。

期待していたほどには、外国への知識については深めることができなかった。

外人と呼ぶことは、外国人にとって失礼にあたることなどを伝えしたが、児童たちは、国へ興味、関心を持ち、外国人の存在について意識することができ、関わりについて考えることができ、外人と呼ぶことは失礼になるといったことを知り、外国の人とのかかわりについて考える端緒ともなった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

「ペルーに行きたい。知りたい」といった未知の国への関心が広がった。テレビで観た外国の事を教師との会話で話してくれる児童が出てくるようになった。ペルーの学校の写真を見て、興味を持ち、「どうしてペルーの学校には、休み時間におやつを食べるのか」といったような、日本の学校と比較して考える態度も見られるようになった。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

授業前では、イギリスやアメリカなど欧米諸国のことで知っていることを話す児童はいたが、南米やアジアなどの開発途上国のことへの話題がほとんどない状況であった。知らないことばかりであり、また興味関心を抱く児童がほとんどいなかった。

(授業後)

授業後には、イギリスから来た児童について再び思い出し、また、ペルーのことを話題にする児童がいるようになった。家庭でもペルーのことやアジアの国々について話題にのぼることがあったと保護者から聞くことができた。一番、良かったこととしては、何気なく「外人」と呼んでいた児童が、学習したことを思いだして「外国人」とよばなければならないと発言するなど、外国人の存在に対して、敬意をもって接していかなければならないという意識の萌芽が見られたことである。

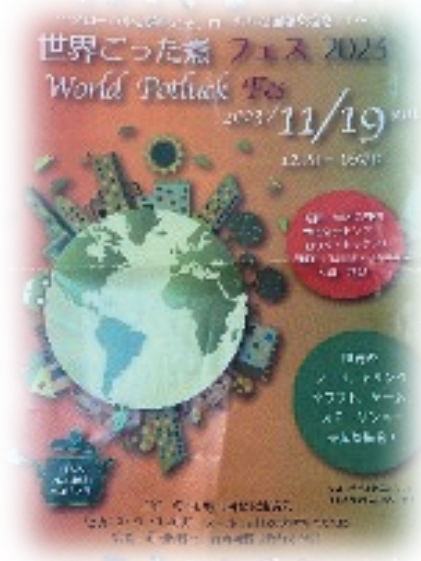
【8】自己評価	
1. 苦労した点	<p>子どもたちの周りに、外国だと感じるものは、リアルには少なく、テレビやYouTubeなどで知っていることも断片的で、子ども達同士での話し合いは、難しかった。また社会的課題に対して、まだまだ知識や経験が少なく、こちらの意図をした社会的視点に沿った学習が進めることができなかった。</p>
2. 改善点	<p>本時の授業は、外国への意識を深めることを狙ったものだが、2時間と授業時間も少なく、児童同士で深め合う学びの場を用意できずに課題意識をもって取り組みをさせることができなかった。</p> <p>タブレットパソコンの使用に関しては、トラブルがおきた。いつも通りの動作を想定していたが、実際に児童のタブレットを用いてのリハーサルなどをする必要があった。</p>
3. 成果が出た点	<p>地図を見せてから地球儀をみせることにより、地球が丸いことを意識させることができた。地球が丸くつながっていることで世界が地球の中でつながっていることを理解させることができた。また外人と呼ぶことは、外国人にとって失礼にあたることなどを伝えたが、児童たちは、国へ興味、関心を持ち、外国人の存在について意識することができ、関わりについて考えることができる第一歩となった。</p>
4. 備考	<p>今回の授業は、総合の時間として取り組んだ。しかし教科の実態として社会科として考えてもよいと思う。JICAのことや社会的課題に関する話を話すことが、教師としては、とても楽しいことであった。普段、児童と学習している社会科、総合科では、基本的な用語もわからない児童に雲をつかむような話を聞かせているという印象で教えるのが難しい教科だと感じていた。だが、身近ではないが、現代社会の世界の中にいるということを児童たちが感じるような学習では、児童たちも課題意識や興味、関心を持ち、取り組むことができたように感じる。未来へつながる本当に役立つ学習を児童たちと一緒にできたことを感じ有意義な学習活動であったと感じる。</p> <p>また、授業者がこのような総合科、社会科という教科がすごく好きなのだということもわかった。</p>

添付資料

・地球儀と世界地図



・ごった煮フェスチラシ



・つながる世界と日本



参考資料

・JICA教材 つながる世界と日本

https://www.jica.go.jp/aboutoda/find_the_link/index.html

・JICAネットライブラリー

<https://www.youtube.com/@JICANetLibrary>

・わたしたちの星「コンセプトムービー」

https://www.youtube.com/watch?v=G8DKPZ_HR_A